

資料3

報道発表資料
平成21年2月18日
気象庁

第112回火山噴火予知連絡会
全国の火山活動の評価

本日、前回の火山噴火予知連絡会（平成20年10月8日）以降の全国の火山活動について検討を行いました。現在までの全国の火山活動の評価は以下のとおりです。

○ 全国の主な火山活動

雌阿寒岳〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2）〕では、2008年11月18日及び11月28～29日に、ポンマチネシリ96-1火口及び第4火口で、ごく小さな噴火が発生しました。噴出した火山灰に新たなマグマ物質は認められず、今回の噴火は水蒸気爆発であったとみられます。2008年11月の噴火以降も、火山性地震の一時的な増加や火山性微動の発生がみられ、ポンマチネシリ火口の噴煙活動がやや活発な状態で推移するなど、火山活動はやや高まった状態が続いています。

ポンマチネシリ火口周辺500メートル程度の範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。また、風下側では降灰に注意が必要です。

浅間山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3）〕では、2月2日、山頂火口で小規模な噴火が発生しました。噴煙の高さは2000メートルで、浅間山の南東から関東地方南部まで降灰が確認されました。噴出した火山灰には、ごく微量のマグマ物質が含まれていました。2月2日の小規模な噴火の発生後は、火山性地震や火山性微動の発生回数は減少しましたが、2月8日からは再びやや多い状態となり、2月9日から12日には噴火が連続的に発生しました。2月2日の噴火後も、GPSによる地殻変動観測では、深部へのマグマの貫入を示す変化が引き続き観測されています。高感度カメラでは引き続き火映が観測されています。また、火山ガスの放出量も多い状態が続いています。

引き続き火山活動の高まった状態が続いており、火口から4キロメートルの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がありますので、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。また、風下側では、降灰および風の影響を受ける小さな噴石に注意が必要です。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3）〕では、2月1～2日にかけて、昭和火口で爆発的噴火が8回発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が5合目まで達しました。有村観測坑道の水管傾斜計では、2008年7月から火口方向が隆起する傾斜変動が続いていましたが、2月上旬の噴火活動以降、火口方向が沈降する傾斜変動に変わりました。また、2月5日以降、爆発的噴火が発生しておらず、火山性地震や火山性微動は少ない状態が続いています。

GPSによる地殻変動観測では、始良カルデラ深部の膨張による変化が引き続き観測され

ています。

今後、始良カルデラの地下深部に蓄積したマグマが桜島直下へ多量に移動・上昇した場合には、火山活動が活発化する可能性があります。

今後も昭和火口及び南岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意してください。降雨時には土石流に注意が必要です。

口永良部島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3）〕では、2008年9月以降、火山性地震の発生が継続しており、振幅のやや大きな火山性微動の発生も継続しています。また、GPSによる連続観測では新岳火口浅部でわずかな膨張を示す変化が引き続き観測されています。2008年10月以降、噴煙のやや多い状態が続いており、火口底では温度上昇が認められています。また、火山ガスの放出が続いています。

引き続き、火山活動が高まった状態が続いており、新岳火口から概ね2キロメートルの範囲に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

三宅島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2）〕では、多量の火山ガス放出は当分継続すると考えられます。引き続き、火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性があるため、火口周辺では噴火に対する警戒が必要です。

○ 各地方の主な活火山の火山活動評価

1. 北海道地方

① 雌阿寒岳 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制)] ←噴火警戒レベル導入に伴い平成20年12月16日に火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制) を発表しました。←平成20年11月17日に噴火予報 (平常) から火口周辺警報 (火口周辺危険) に引き上げました。←平成20年10月17日に火口周辺警報 (火口周辺危険) から噴火予報 (平常) に引き下げました。

- ・ 2008年9月26日以降の火山性地震の増加や火山性微動の発生により9月29日に火口周辺警報 (火口周辺危険) を発表しましたが、10月1日以降地震活動が低調になったため10月17日に噴火予報 (平常) を発表しました。

- ・ 11月9日～12日に再び火山性地震が増加し、11月16日には振幅が小さく継続時間がやや長い火山性微動が発生して、この微動に伴い火口の浅部が膨張するようわずかな地殻変動も観測されました。11月17日には火山性の連続微動が発生したことから火口周辺警報 (火口周辺危険) を発表しました。

- ・ 11月18日及び11月28日～29日にかけて、ポンマチネシリ96-1火口及び第4火口でごく小さな噴火が発生しました。これらの噴火による降灰は山頂火口周辺から火口の東側約8km、北側約6kmまで確認され、噴出物の量は前回 (2006年3月21日) の噴火の噴出物量と同程度かやや多いと推定されています。北海道大学の分析によると、11月28日の噴火で噴出した火山灰には新たなマグマ物質は認められず、今回の噴火は水蒸気爆発であったとみられます。

- ・ 11月の噴火以降も、火山性地震の一時的な増加や火山性微動の発生がみられ、ポンマチネシリ火口の噴煙活動がやや活発な状態で推移するなど、火山活動はやや高まった状態が継続しています。

- ・ GPSによる観測では、2008年10月初め頃よりやや広域の地殻変動が認められていますが、浅部の膨張は認められていません。

- ・ ポンマチネシリ火口周辺500m程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する噴石に警戒が必要です。また、風下側では降灰に注意が必要です。

② 十勝岳 [噴火予報 (噴火警戒レベル1、平常)] ←噴火警戒レベル導入に伴い平成20年12月16日に噴火予報 (噴火警戒レベル1、平常) を発表しました。

- ・ 62-2火口付近では2006年以降、GPSによる地殻変動観測で62-2火口浅部の膨張を示すと考えられる局所的な地殻変動がみられ、現在まで続いています。

- ・ 62-2火口付近の地震活動及び同火口の噴煙活動や熱活動は低調な状態ですが、今後の活動の推移に注意が必要です。

③ 樽前山 [噴火予報 (噴火警戒レベル1、平常)]

- ・ A火口及びB噴気孔群では高温の状態が続いています。また、山頂溶岩ドーム付近の局所的な膨張を示す地殻変動が2006年以降継続しています。

- ・ 地震活動や噴煙活動は低調な状態ですが、今後の活動の推移に注意が必要です。

④ 倶多楽 [噴火予報 (平常)]

・火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

⑤ 有珠山 [噴火予報 (噴火警戒レベル1、平常)]

・火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

⑥ 北海道駒ヶ岳 [噴火予報 (噴火警戒レベル1、平常)]

・火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

⑦ 恵山 [噴火予報 (平常)]

・火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

2. 東北地方

① 岩木山 [噴火予報 (平常)]

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

② 岩手山 [噴火予報 (噴火警戒レベル1、平常)]

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

③ 秋田駒ヶ岳 [噴火予報 (平常)]

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

④ 栗駒山 [噴火予報 (平常)]

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

⑤ 吾妻山 [噴火予報 (噴火警戒レベル1、平常)]

・2008年11月11日に大穴火口で噴気活動が活発化し、その後も大穴火口では高さ100～400mの白色の噴気が観測されています。大穴火口内では、泥流状の噴出物が見られました。今回の噴気には高濃度の二酸化硫黄が含まれていることが確認されました。噴気活動は大穴火口のみで観測されており、一切経山や、大穴火口以外の場所では、地表面温度等変化

は認められません。

- ・火山性地震は2008年8月～11月にかけてやや多い状態でした。
- ・大穴火口付近で実施した地殻変動観測では2008年8月頃からの火山性地震の増加にあわせ、大穴火口付近がわずかに伸びる変化が観測されていました。広域の地殻変動観測では変化はみられず、大穴火口付近の局所的な膨張源があるものとみられます。このような変化は2006年、2007年にもみられていました。
- ・大穴火口での噴気活動は継続していますので、火口内では、噴出等に注意が必要です。また、風下側では火山ガスに注意が必要です。

⑥ 安達太良山 [噴火予報 (平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

⑦ 磐梯山 [噴火予報 (平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

3. 関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

① 那須岳 [噴火予報 (平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

② 草津白根山 [噴火予報 (噴火警戒レベル1、平常)]

- ・湯釜火口内北東部の小噴気孔では、その後の観測でも気象条件による温度の変動はありますが、温度の高い状態が継続しています。また、湯釜火口内北壁では、2009年2月17日に新たな噴気が認められました。
- ・火山性地震の発生回数は少ない状態で、火山性微動の発生もありません。水釜火口の北側斜面や湯釜火口内でのわずかな熱活動の高まりが継続していますので、今後、これらの活動がさらに高まった場合には、火口内で噴出等の現象が発生する可能性がありますので、今後の活動の推移に注意が必要です。

③ 浅間山 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、入山規制)] ←2月1日に火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、入山規制) を発表し、レベル2 (火口周辺規制) からレベル3 (入山規制) に引き上げました。

- ・2月2日1時51分頃、山頂火口で小規模な噴火が発生しました。この噴火により弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から1～1.2kmに達し、噴煙の高さは2000mでした。噴火発生時に軽井沢町内では、鳴動や空振が観測されました。
- ・噴火による降灰は、軽井沢町、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、千葉県の間東地方南部の広い範囲で確認され、降灰の総量は約2～3万トンと推定されました。

- ・東京大学地震研究所の分析によると、2月2日の噴火で噴出した火山灰には、ごく微量のマグマ物質が含まれていました。
- ・火山性地震は2008年7月以降、増減を繰り返しながらやや多い状態でしたが、2008年9月以降は山体西麓深部へのマグマ貫入を示唆する地震活動の高まりが見られました。2009年1月以降は、火山性地震の回数はさらに増加し、2009年1月には、山頂西部の海拔下1km付近を震源とする地震活動がありました。
- ・1月8日に山麓からの観測で、山頂火口縁に黄色い変色域が観測され、1月16日に実施した上空からの観測では、山頂火口の内壁の広い範囲と火口縁に硫黄と思われる黄色い昇華物が観測されました。山頂火口底に従来から見られた温度の高い部分があり、高温の領域は2008年8月に比べやや広がっていました。また、1月21日には山麓からの観測で山頂火口縁の北西側にごく少量の火山灰が付着しているのが確認され、1月20日頃にごく少量の火山灰の噴出があったものと思われます。
- ・2月1日2時頃から(2月2日噴火発生約24時間前)、山頂の東北東にある傾斜計で変化が始まり、2月1日午前には山頂直下を震源とする周期の短い火山性地震が増加しました。これらことから、2月1日13時00分に噴火警報を発表し、噴火警戒レベルを2から3に引き上げました。
- ・2月2日の小規模な噴火後は、火山性地震や火山性微動の発生回数は噴火前に比べ減少しましたが、2月8日からは再びやや多い状態となり、2月9日から12日には噴火が連続的に発生しました。
- ・2月2日の小規模な噴火後も、高感度カメラでは火映が引き続き観測されており、山頂火口では高温の状態が続いていると考えられます。山頂の地震計では灰の噴出を示唆する微動も断続的に観測されています。また、二酸化硫黄の放出量も1日あたり2000～4000トンと多い状態が続いています。
- ・山体周辺のGPSによる地殻変動観測では、昨年7月初め頃から深部へのマグマ貫入を示すわずかな伸びの傾向が引き続き観測されています。また、2008年9月頃から2009年1月下旬にかけて山頂と山麓南側及び、山頂と山麓東の間の距離に、縮みの変化が観測されており、山頂部のごく浅いところが膨張していたと推定されています。
- ・引き続き火山活動の高まった状態が続いており、火口から4キロメートルの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があり、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。また、風下側では、降灰および風の影響を受ける小さな噴石に注意が必要です。

④ 新潟焼山 [噴火予報 (平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

⑤ 焼岳 [噴火予報 (平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

⑥ 御嶽山 [噴火予報 (噴火警戒レベル1、平常)]

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

⑦ 白山 [噴火予報 (平常)]

・2008年11月23日、12月6日、12月17日、2009年1月9～11日に山頂付近(白山山頂の北約1kmから、南約5km)でややまとまった地震活動がありました。これらの地震は、従来から活動がみられる領域で発生しました。

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

⑧ 富士山 [噴火予報 (噴火警戒レベル1、平常)]

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

⑨ 箱根山 [噴火予報 (平常)]

・12月16日に、駒ヶ岳付近を震源とする一時的な地震の増加がみられました。火山性微動の発生はなく、湯河原(箱根山の南東約10km)に設置した体積歪計にも変化はみられません

・噴気等の表面現象には特段の変化はみられていません。火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

⑩ 伊豆東部火山群 [噴火予報 (平常)]

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

⑪ 伊豆大島 [噴火予報 (噴火警戒レベル1、平常)]

・2009年1月18日に伊豆大島の西沿岸深さ5～6kmを震源とする地震が一時的に増加しました。これらの地震は、これまでも時々地震活動のみられる領域内で発生しており、この地震活動にともなって、地殻変動データや噴煙活動に変化はありませんでした。

・GPS、光波距離計及び体積歪計による地殻変動観測では、地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な島全体の膨張傾向が継続しています。2008年3月頃より2008年7月上旬にかけて収縮傾向がみられていましたが、2008年7月中旬頃より再び膨張傾向になり、現在も継続しています。

・火山活動は静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

⑫ 三宅島 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

・二酸化硫黄放出量は一日あたり1000～3000トンと、依然として多量の火山ガス放出が続

いています。

- ・地震活動や地殻変動にはこれまでの傾向と比べ特に大きな変化はみられません。
- ・引き続き三宅島では、火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性があります。火口周辺では噴火に対する警戒が必要です。
- ・多量の火山ガス放出が続いており、風下にあたる地区では引き続き火山ガスに警戒が必要です。また、雨による土石流にも注意が必要です。

⑬ 八丈島 [噴火予報 (平常)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

⑭ 硫黄島 [火口周辺警報 (火口周辺危険)]

- ・地震活動は落ち着いた状態で経過しており、地温の高い領域や噴気の温度に大きな変化は認められていません。2006年8月以降みられていた島全体が大きく隆起する地殻変動は、2008年11月末頃から鈍化しましたが、現在も継続しています。
- ・硫黄島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では警戒が必要です。

⑮ 福徳岡ノ場 [噴火警報 (周辺海域警戒)]

- ・変色水が確認されており、小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では警戒が必要です。

4. 九州地方・南西諸島

① 九重山 [噴火予報 (噴火警戒レベル1、平常)]

- ・噴煙及び地震活動等に特段の変化はなく、火山活動は静穏な状況で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

② 阿蘇山 [噴火予報 (噴火警戒レベル1、平常)]

- ・12月23日以降、中岳第一火口南側火口壁からごく少量の火山灰の噴出が時々観測されています。また、12月27日以降、現地調査で時々火炎現象を観測しています。
- ・孤立型微動は概ね少ない状態でしたが、12月上旬に一時的に日回数100回以上になりました。

火山性地震は2008年10月上旬と2009年1月中旬にやや増加しました。

- ・中岳第一火口の湯だまり量は12月下旬以降9割に減少しました。表面温度は12月下旬以降にやや低くなっています。南側火口壁の温度は250℃前後で経過していましたが、2008年12月27日に火炎現象を観測して以降は400℃～450℃と高くなっています。
- ・二酸化硫黄放出量は少ない状態で経過しました。
- ・火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、火口付近では引き続き火山ガ

スに対する注意が必要です。

・南阿蘇村吉岡（中岳第一火口から西南西約6 km）の噴気は噴出力がやや強く、引き続き噴気活動に注意が必要です。

③雲仙岳[噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

・噴煙及び地震活動等に特段の変化はなく、火山活動は静穏な状況で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

④霧島山

新燃岳[火口周辺警報（噴火警戒レベル1、平常）]←平成20年10月29日に噴火予報を発表し、レベル2（火口周辺規制）からレベル1（平常）に引き下げました。

・2008年8月22日16時34分頃噴火が発生しましたが、その後噴火の発生はありませんでした。

・10月以降、白色の噴煙が50～1000mまで上がっています。

・10月1日に九州地方整備局、10月2日に鹿児島県の協力を得て行った上空からの観測では、8月24日に九州地方整備局の協力を得て行なった上空からの観測に比べて、火口内の噴煙量が減少していました。

・火山性地震は、少ない状態で経過しました。火山性微動の発生はありませんでした。

・新燃岳では、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

・火口内及び火口の外の西側斜面では引き続き噴気が見られており、火口内に影響する程度の火山灰の噴出が発生する可能性がありますので、警戒が必要です。

御鉢[噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

・噴気活動及び地震活動等に特段の変化はなく、火山活動は静穏な状況で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

⑤桜島[火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]←2月2日に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を発表し、レベル2（火口周辺規制）からレベル3（入山規制）に引き上げました。

・昭和火口では、2月1日11時～2日07時にかけて爆発的噴火が8回発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が5合目（昭和火口より500mから800m）まで達しました。

・このことから、噴火活動は活発化する恐れがあると判断し、2月2日09時30分に噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

・有村観測坑道（九州地方整備局大隅河川国道事務所）の水管傾斜計では、2008年7月から火口方向が隆起する傾斜変動が続いていましたが、2月上旬の噴火活動以降、火口方向が沈降する傾斜変動に変わりました。また、2月5日以降、爆発的噴火が発生しておらず、火山性地震や火山性微動は少ない状態が続いています。

・昭和火口の噴火活動は、2006年6月の噴火以降、長期的には次第に活発化している傾向がみられます。

・GPSによる地殻変動観測では、始良カルデラ深部（鹿児島湾奥部）の膨張による変化が

引き続き観測されています。今後、始良カルデラの地下深部に蓄積したマグマが桜島直下へ多量に移動・上昇した場合には、火山活動が活発化する可能性があります。

・今後も昭和火口及び南岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意してください。降雨時には土石流に注意が必要です。

⑥薩摩硫黄島[火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

・噴煙活動や地震活動ともにやや活発で、硫黄岳山頂火口周辺では噴火に対する警戒が必要です。

⑦ 口永良部島[火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）] ←平成20年10月27日に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を発表し、レベル2（火口周辺規制）からレベル3（入山規制）に引き上げました。

・GPSによる連続観測では、2008年9月以降の新岳火口浅部のわずかな膨張を示す変化はやや鈍化していますが、現在も続いています

- ・9月以降、振幅のやや大きな火山性微動が時々発生し、微動回数はやや多い状態です。
 - ・火山性地震は月回数100回～140回で、震源は、主に新岳火口直下のごく浅い領域に分布しています。
 - ・二酸化硫黄の放出量は、2008年10月初めは1日あたり40トン程度でしたが、次第に増加し、12月以降は1日あたり200トン前後で推移しています。
 - ・10月1日に九州地方整備局、10月25日及び11月13日に第十管区海上保安本部、12月16日に海上自衛隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て上空からの観測を実施しました。10月25日の観測では、10月1日の観測に比べて、新岳火口壁の南側噴気孔及び火口周辺の白色噴煙が増加していました。11月以降の観測でも、噴煙のやや多い状態が続いています。
- また、火口底では2008年10月以降温度上昇が認められており、引き続き温度の高い状態が続いています。

・今後、新岳火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

⑧諏訪之瀬島[火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

・御岳（おたけ）火口では、小規模な噴火や爆発的噴火が時々発生しました。爆発的噴火は、10月68回、11月46回、12月17回、1月2回（15日まで）発生しています。噴煙の高さの最高は、10月23日の爆発的噴火に伴う火口縁上2,000mでした。

・十島村（としまむら）役場諏訪之瀬島出張所によると、集落で時々少量の降灰を確認しました。

・火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

・今後、火口から概ね1km範囲に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

○ その他の活火山

以下の活火山では、いずれも火山活動は静穏な状況が続いています。

1. 北海道地方

知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌプリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

2. 東北地方

恐山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳

3. 関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島

高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、青ヶ島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、西之島、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山

4. 中国・九州地方及び南西諸島

三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山

注) 噴火警戒レベルは平成21年2月18日現在、21火山に導入している。

全国の活火山の噴火警報及び噴火予報発表状況

(1) 主な活火山 (37 火山)

地方	火山名	現在 (ここで示すレベルは噴火警戒レベルである)	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
北海道地方	雌阿寒岳	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2008年9月29日 火口周辺警報(火口周辺危険) 2008年10月17日 噴火予報(平常) 2008年11月17日 火口周辺警報(火口周辺危険) 2008年12月16日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	十勝岳	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2008年12月16日 噴火予報(レベル1、平常)
	樽前山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	倶多楽	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	有珠山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2008年6月9日 噴火予報(レベル1、平常)
	北海道駒ヶ岳	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	恵山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
東北地方	岩木山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	岩手山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	秋田駒ヶ岳	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	栗駒山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	吾妻山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	安達太良山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
関東・中部地方・伊豆・小笠原諸島	磐梯山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	那須岳	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	草津白根山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	浅間山	火口周辺警報 (レベル3、入山規制)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常) 2008年8月8日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年2月1日 火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年2月3日 火口周辺警報(レベル3、入山規制)
	新潟焼山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	焼岳	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	御嶽山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常) 2008年3月31日 噴火予報(レベル1、平常)
	白山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	富士山	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	箱根山	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	伊豆東部火山群	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
	伊豆大島	噴火予報(レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報(レベル1、平常)
	三宅島	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日 火口周辺警報(火口周辺危険) 2008年3月31日 火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	八丈島	噴火予報(平常)	2007年12月1日 噴火予報(平常)
硫黄島	火口周辺警報(火口周辺危険)	2007年12月1日 火口周辺警報(火口周辺危険)	
福徳岡ノ場	噴火警報(周辺海域危険)	2007年12月1日 噴火警報(周辺海域警戒)	

	火山名	現在 (ここで示すレベルは噴火警戒レベルである)	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
九州地方・南西諸島	九重山	噴火予報 (レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報 (レベル1、平常)
	阿蘇山	噴火予報 (レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報 (レベル1、平常)
	雲仙岳	噴火予報 (レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報 (レベル1、平常)
	霧島山(新燃岳)	噴火予報 (レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報 (レベル1、平常) 2008年8月22日 火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2008年10月29日 噴火予報 (レベル1、平常)
	霧島山(御鉢)	噴火予報 (レベル1、平常)	2007年12月1日 噴火予報 (レベル1、平常)
	桜島	火口周辺警報 (レベル3、入山規制)	2007年12月1日 火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2008年2月3日 火口周辺警報 (レベル3、入山規制) 2008年2月20日 火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2008年4月8日 火口周辺警報 (レベル3、入山規制) 2008年7月14日 火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2008年7月28日 火口周辺警報 (レベル3、入山規制) 2008年8月28日 火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2009年2月2日 火口周辺警報 (レベル3、入山規制)
	薩摩硫黄島	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日 火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)
	口永良部島	火口周辺警報 (レベル3、入山規制)	2007年12月1日 火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2008年1月25日 噴火予報 (レベル1、平常) 2008年9月4日 火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2008年10月27日 火口周辺警報 (レベル3、入山規制)
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日 火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)

注) 噴火警報及び噴火予報の発表履歴は、2007年12月1日以降のものを記載しています。

(2) その他の活火山 (71 火山)

以下の活火山では平成19年12月1日に噴火予報(平常)を発表し、その後、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

地方	火山名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌプリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方 及び伊豆・小笠原諸島	高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、青ヶ島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、西之島、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島島、西表島北北東海底火山

